

抄遊交

毎年秋に甲府市のすし屋さんで浪曲の会を開くようになって7年た。そして年1回は私が

になる。きっかけは同市甲府に出掛け、ご家族との弁護士、清田嘉一先生も親しくさせていた。その出会いだった。8年ほど前、浪曲の定席、東京・浅草の木馬亭に先生は突然やって来た。そのときは「今度は路子さんの勉強会に行きますから」とだけ声を掛けられた。

そして私がいまでも続けている新ネタをおろす勉強

士護弁口辛

子路
が、人情を大切にされている先生の仕事ぶりは、浪曲の世界に通じると思う。

士富
浪曲仲間は先生について「いいお客さんだね」と言う。それは終演後の感想が辛口だからだ。「今日は出来が悪かった」などと痛いところを突かれるので怖い

会に来てくださった。終演後に私の後援会、浪路

会の集まりに参加した先生は、落語などの演芸にとっても詳しく耳が肥えていて、すぐに後援会の人気者になった。そして「甲府で会をやってほしい。ぜひ王道の浪曲をやってほしい」と仰った。

会会長)